

**那須与一伝承館テーマ展  
「関東の竹工芸の源流  
―飯塚三代の技と美―」**

那須与一伝承館に寄託されている飯塚鳳齋(ほうさい)・琅玕齋(ろうかんさい)・小玕齋(しょうかんさい)の竹工芸作品の展示を行います。大田原の竹工芸のまさに源流というべき、飯塚三代による名品の数々を、ぜひこの機会にお楽しみください。



花籃 (飯塚鳳齋作)

- **期間** 5月22日(土)～6月20日(日)、午前9時～午後5時(入館は午後4時30分まで)  
※休館日：毎月第2・4月曜日(祝日の場合はその翌日)
- **場 所** 那須与一伝承館展示室
- **展示内容**
  - ・花籃(飯塚鳳齋作)
  - ・竹組「はせを(芭蕉)」(飯塚琅玕齋作)
  - ・石畳花籃「白寿」(飯塚小玕齋作)
- **観覧料** 高校生以上300円(250円)、中学生以下無料
- ※( )内は10名以上の団体料金

◆「飯塚三代(飯塚家)」とは  
飯塚家は現在の栃木市の出身で、日本に近代工芸としての竹工芸が確立し、それが日本の伝統工芸として定着するうえで、大きな役割を果たしました。その流れは大田原をはじめとする関東の竹工芸界に受け継がれ、現在の隆盛に至っています。

鳳齋は父の初代鳳齋に次ぐ二代目。琅玕齋も初代鳳齋の子。小玕齋は琅玕齋の子にあたります。

■ **問い合わせ**  
那須与一伝承館  
TEL(20)0220

**黒羽芭蕉の館「レクシオン展  
「画卷でみる『おくのほそ道』」**

数年前、当館では「奥の細道画卷」のレプリカ(複製)を購入し、「日光」「那須」「黒羽」「雲巖寺」の章を展示したことがあります。今回は、「月日は百代の過客にして、行かふ年も又旅人也」で始まる序章から「石の巻」の章までの前半24章部分を原物展示し、後半21章部分(平泉から大垣)を写真パネルにて展示することにより、その全体像を紹介します。

- **期間** 5月21日(金)～6月3日(木)、午前9時～午後5時(入館は午後4時30分まで)
- **場 所** 黒羽芭蕉の館 研修室
- **テーマ** 「画卷でみる『おくのほそ道』」
- ※5月24日(月)、31日(月)は休館

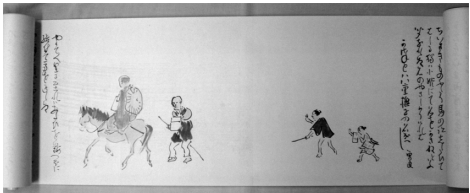
● **展示資料** 「奥の細道画卷」(複製) 原資料は与謝蕪村筆

● **観覧料** 大人300円(200円)、小学生100円(50円)

※( )内は20名以上の団体料金

◆「奥の細道画卷」とは  
池大雅(いけのたいが)とともに日本南画の大成者とされる与謝蕪村(1716・83)による作品。蕪村は、俳人としても松尾芭蕉没後の俳諧退廃期のなかで「芭蕉に帰れ」と唱え、清新で感覚的な俳諧詩の世界を作り上げました。蕪村が敬愛する芭蕉へのオマージュ(賛歌)として、『おくのほそ道』を筆写し、十数点の挿絵を配した作品が「奥の細道画卷」。現在、蕪村による同様の作品については、4点の所在が確認されていますが、最近所在が確認されたのは平成14年のことです。これは安永7年(1778)6月、兵庫の廻船問屋北風来屯(きたかぜ)により制作されたもので、蕪村63歳の作品です(今回展示するのは本作品の複製)。

■ **問い合わせ**  
黒羽芭蕉の館  
TEL(54)4151



「奥の細道画卷」より「那須」の章

**栃木県主催  
親子統計教室参加者募集**

● **日時**  
①6月6日(日)  
②6月13日(日)

※①、②は同じ内容です。  
午後1時～3時30分

● **場 所** 栃木県庁本館大会議室(宇都宮市埴田1-1-20)

● **内 容** 統計グラフの作り方など受講後、親子で絵を描いたり、紙を貼りながらポスター状の作品を作成

● **講 師** 市貝町立小貝中央小学校 大塚英子先生(6月6・13日)  
鹿沼市立みなみ小学校 久武孝弘先生(6月6日のみ)

● **対象者** 県内の小学生(3年生以上)とその保護者

● **定 員** 30組60名(先着順)

● **参加料** 無料

● **主 催** 栃木県、栃木県教育委員会、栃木県統計協会

● **申込方法** 5月21日(金)までに県統計課までお問い合わせください。

■ **問い合わせ**  
栃木県県民生活部統計課管理普及担当  
〒320-8501  
宇都宮市埴田1-1-20  
TEL 028(623)2242  
FAX 028(623)2247  
☐ tokika@pref.tochigi.lg.jp